

◆平和か戦争か—安保3文書反対！

◆安保3文書の危険性・世論だまし
知り、知らせよう 学習で宣伝・対話で
“戦争は嫌！” “閣議決定撤回！” の
声をあげ続けよう

◆「平和を望むなら平和を準備せよ」

故・加藤周一さん(九条の会呼びかけ人・評論家)の語録から

◎「どうして突然軍事力を強化しなければならないか、戦争の準備をしなければならないのか。『平和を望むなら、戦争を準備せよ』という諺がラテン語の諺にあるんですが、それは間違っています。やはり、戦争の準備をすれば、戦争になる確率が高い。もし平和を望むなら戦争を準備せよじゃあない。平和を望むならば、平和を準備した方がいい。戦争を準備しない方がいいです。準備は、容易に本当の戦争の方へ近づいていく。非常に早く、強く。例は日本だけではなくて、現在の米国でもそうでしょう。昔のローマでもそうでしょう。例外はほとんどないですね。戦争の準備をすれば、戦争の方へ近づいていきます。」

(九条の会シンポジウム「自民党改憲案は日本をどこに導くか」(2005/11/27)で発言、九条の会ブックレット『改憲論が描く日本の未来像 自民党「新憲法草案」批判』(2006/2/4)所収)

◎「戦争の名目には、実におどろくべき多様性があり、ここで列挙できないほどです。しかしそれを見破る必要は大きいのです。戦争で死ぬのは、名目を作って宣伝する人たちではなく、それにだまされる一般市民だからです。いくつか重要な名目に触れておきましょう。

その一つは『平和』です。内村鑑三は日清戦争を、それが東洋永遠の平和のためであると信じて支持したが、その10年後にもまた東洋永遠の平和のために日露戦争がおこった。一度はだまされたが二度はだまされないと言い、『剣を以て起(た)つ者は剣によ

って滅びる』と警告しました。『平和を望むならば武器を捨てよ』です。果たして日露戦争の10年後には世界平和のための最後の戦争、であるはずの世界大戦がおこりました。さらにその後何が起こったかは御存知の通りです。大きな破壊の苦しみの中には、地上の楽園ではなく、大きな廃墟と新たな苦しみを予期しなければなりません。

もう一つ、常にくり返されてきた名目が、『自衛』です。これこそは実に便利な言葉で、吉田茂元首相も議会で説明したように、今までの戦争のほとんどすべては自衛のための戦争でした。」(岩波ブックレットNo.664『憲法九条、未来をひらく』(岩波書店 2005/11/8)所収)

◎「第一次大戦のときの一方の参戦国で当時の大帝国オーストリアの首府ウィーンで活躍した劇作家で作家、評論家でもあるカール・クラウスが、『人類最期の日々』という劇の形で第一次世界大戦の銃後、街のなかでなにが起きているかということを描きました。その中の一つの言葉が、『戦争とは何か、戦争とは嘘の体系だ、だから気をつけたほうがいい』です。」

◎「私は忍び足の戦争と言うんですが、いつ本格的に戦争になるかわからない。整列した軍隊の靴音ははじめは聞こえない。忍び足だから。いつ始まったかわからない、それがだんだんに既成事実を積み重ねて、だんだんに広がっていく。」

(以上、九条の会ブックレット『加藤周一が語る 聞き手小森陽一』(2008/11/24)所収)

各地の取り組みから

宮 城 総がかり行動実行委員会が現地とともに「東北集会」 **仙台市**

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会が呼びかけるブロック別の全国学習・講演会の取り組みの一つとして「『軍拡、改憲よりくらし、平和』の運動を前進させるための東北集会」が1月25日夜、仙台市のハーネル仙台で開催されました。オンライン併用でおこなわれ、150人が参加しました。

ブロック別の全国キャンペーンはこれまでに、年末12月25日の香川・高松市で実施された「敵基地攻撃能力(反撃能力)保有等の閣議決定に抗議する緊急行動」(市内商店街に立憲野党・地域政党代表、関係団体構成員ら60人が結集し、宣伝行動を展開)、1月16日に全国連鎖学習会の皮切りとして、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会主催の学習会がオンラインで行われ、飯島滋明名古屋学院大学教授が講演、安保3文書の内容と危険性を解明、広く知らせようと呼びかけました。

仙台市の東北集会は、総がかり行動実行委員会の呼びかけにこたえ、現地事務局として宮城県護憲平和センター、宮城憲法会議、憲法を守る市民委員会、みやぎ憲法9条の会、宮城県内9条の会連絡会、みやぎ9条懇話会が参加し、東北各県の関係者・関係団体に呼びかけて取り組まれました。

集会では、総がかり行動実行委員会の勝島一博運営委員があいさつし、全国各地8ブロックで取り組み、草の根の運動を展開するきっかけにするこの一連の集会の意義を述べ、軍拡、改憲よりくらし、平和だという宣伝行動の強化などを訴えました。

総がかり行動実行委員会運営委員でもある改憲問題対策法律家6団体連絡会事務局長の大江京子弁護士が、同連絡会が作成したパンフレット『9条実質改憲としての安保三文書改定一戦争させないためのQ&A』にもとづいて講演しました。大江弁護士は、3文書の背景にアメリカの対中国政策があり、「台湾有事」に沖縄・九州を拠点に自衛隊が米軍の指揮下で中国と戦争することが想定され、そのための敵基地攻撃能力(反撃能力)の保

有、大規模軍拡であることを解明しました。3文書は、日本が戦争国家となり、福祉国家をやめるという宣言であり、国の形を大転換するものと指摘。市民の声、世論の力で閣議決定を無効化・撤回させ、政治を変えようと呼びかけました。

集会では、安保3文書の撤回を求め、平和的な外交関係の構築による安全保障政策を求めるアピールが採択されました。

東京 軍拡は戦争への道、税金は国民生活に使い！と集会 東久留米市

1月22日、「1・22 軍拡は戦争への道、税金は国民生活に！集会・パレード」が取り組まれ、140人が参加しました。主催は同集会・パレード実行委員会（個人と東久留米市内の九条の会、反核平和市民実行委員会、革新懇、市民連合、新日本婦人の会、東京土建支部、地区労、年金者組合、国民救援会、民主商工会、生活と健康を守る会で構成）。

集会では主催者代表が、「安保3文書による大軍拡の方針は、決め方も内容も、憲法を無視し、国民主権をないがしろにするもので許すことはできない。1月13日の日米首脳会談で両首脳は敵基地攻撃能力の推進に合意した。これに対し、元防衛大臣らも『専守防衛』をはるかに超えたものと批判の声をあげている。戦争する国に転換させないよう草の根から世論を大きく広げよう」と呼びかけました。

原のり子日本共産党東京都議が発言、社民党と市民自治フォーラム所属の市議会議員からメッセージが寄せられました。集会では、「今年を新しい戦前の年に決してしないよう、ともに立ち上がろう」とのアピールが採択されました。

集会後に行った西口中央公園までのパレードのなかでは、女子中学生4人組も参加し、いっしょに歩きました。

東京 4 駅頭（王子、赤羽、十条、田端）でいっせい行動 北区

北区の「戦争はイヤだ！北区ネット」（参加団体＝戦争させない・9条壊すな！総がかり行動北区実行委員会、戦争をさせない北区1000人委員会、憲法を生かす北区市民の会、戦争に反対する東京北部青年の会、STOP改憲・北区の会、赤羽西地域九条の会、9条を守る十条の会、田端・中里九条の会、北法律9条の会、北区革新懇、北区労連、北区ユニオン、さよなら原発1飛鳥山実行委員会、さようなら原発アクション北実行委員会、平和のための北区の戦争展実行委員会、北区平和委員会、東京土建北支部、新婦人北支部、東京ほくと医療生協、国労東京支部、ZENKO北部実行委員会、北区母親連絡会、北区民主商工会、戦争への道を許さない北・板橋・豊島の女たちの会、西ヶ原上中里9条の会、東京ふれあい医療生協労働組合、榎橋本新企画、平和と福祉のまちをつくるみんなの会、全水道東水労北部支部・北分会、北区生活と健康を守る会、北部福祉倶楽部）は共同で1月15日午後、「大軍拡ストップ！平和とくらしを守りぬく北区ネット いっせい駅前アピール行動」を区内4つのJR駅頭で行いスタンディングとリレートークで訴えました。

行動では、「大軍拡やめろ！」、反対世論を無視して閣議決定された安保3文書の危険な内容、対話と外交でこそ平和は実現できることをアピール。1月21日に北とびあで行った講演会（講師：飯島滋明名古屋学院大学教授）の案内チラシを配布しました。



1月15日王子駅前

戦争はイヤだ！北区ネットは、安保3文書が閣議決定された翌日の昨年12月17日、練馬区、板橋区、豊島区の市民団体の仲間といっしょに「軍拡反対・池袋アクション」を取り組みました。この行動には200人が参加しました。2月19日、3月19日の総がかり行動実行委員会が呼びかける国会行動の日には、両日ともその前段、午前11

時から 1 時間、池袋東口西武デパート前でスタンディングを行います。

茨城 **大軍拡・大増税ノー、国民に信を問え！と宣伝** **水戸市**

「戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会」は 1 月 19 日、水戸駅前で「共同アクション」を行い、「平和もくらしも壊す大軍拡・大増税NO」の横断幕をかけた、リレートークで戦争法の廃止と安保 3 文書に抗議する宣伝を展開しました。

同連絡会の代表・田中重博茨城大学名誉教授は、「自民党政府が国是としてきた『専守防衛』を投げ捨て、戦争と大増税をねらう『安保 3 文書』を国会の議論もなく閣議決定した岸田政権はとんでもない」と批判、「専守防衛」を変えるなら国民の信を問うべだと強調し、大軍拡、大増税反対の世論をひろげること、憲法 9 条を生かした平和外交の道を切り開くべきだと訴えました。労働組合や団体のメンバーが次つぎ発言しました。

福井 **戦争準備などため、宣伝行動を激励の通行人も** **福井市**

「戦争する国づくり反対！福井総がかりアクション」は 1 月 21 日、福井市内で、安保 3 文書に反対する宣伝を行いました。

同アクションの屋敷紘美代表は、「国民の反対の声もきかず、国会で審議もせず、閣議決定した。憲法にも立憲主義にも反する」と批判しました。

立憲民主党の龍田清成県連副代表は、「戦争は仕掛けた方も仕掛けられた方も大損害を被る。戦争の準備などすべきでない」と訴え、日本共産党の金元幸枝県委員会書記長は、「大軍拡・大増税反対の世論と運動を大きくし、岸田政権を追い込もう」と発言しました。

通りかかった高齢の女性は、「戦争の準備だなんてとんでもない、絶対反対」と述べ、宣伝行動に「いいことをやってくれている」と激励しました。

岡山 **109 回目の「戦争法反対、9 条守ろう」のデモ** **倉敷市**

「戦争法に反対する倉敷市民の会」は 1 月 21 日、JR 倉敷駅前「戦争法廃止、9 条守れ」のアピール行動を行いました。2015 年 9 月に強行採決された戦争法に抗議するもので、その後毎月第 3 土曜日に継続している取り組み、今回が 108 回目の行動です。

参加した 20 人が駅前、「戦争させない」「憲法 9 条を守ろう」などのプラスターを掲げ、安保 3 文書の大軍拡路線や国民世論無視の岸田政権の悪政批判などをリレートークで訴えました。

倉敷駅前の行動の後、観光客でにぎわう倉敷美観地区の横を歩いてアピールしました。通りかかった男子高校生らが「戦争？」「戦争が始まる？まじか」と話題にし、対話がかかわされる場面もありました。

広島 **岸田首相の施政方針演説に「怒らんといけん！」** **広島市**

「戦争させない・9 条壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会」は 1 月 23 日夕、通常国会開会を受けて広島市内の繁華街で、岸田首相が施政方針演説で表明した大軍拡、大増税の方針について、「絶対に許さない、岸田首相の地元から退陣の声をあげよう」と宣伝しました。

行動には 50 人が参加し、「ミサイル買うより子育て充実」などと大書きしたものなど 4 枚の横断幕を掲げ、弁護士、保育士らがリレートークでアピールしました。

6 人の弁士は口々に、「43 兆円もの大軍拡を、選挙で国民に信を問うこともせず、国会の審議もなく、閣議決定で強行しようとする岸田政権に私たちの命やくらしを任せるわけにはいかない」、「労働政策の見直しや社会保障の充実、憲法 25 条にもとづく最低限度の生活を保障することが政治の役割で、岸田政権は全く逆を向いている」、「軍事費ではなく、未来を担う子どもたちの予算を増やせ」、「コロナ、物価高騰、中小企業、子育て、医療、福祉、教育など日本が直面する深刻な問題に目を向け、予算を回せ」などと抗議と批判の声をあげました。

訴えをきいていた通行人は、「確かに。岸田首相は国民の命よりも自分の立場とアメリカの機嫌を取ることが大事なようだ。腹が立って仕方がない。国民はもっと怒らんといけん」と話しました。